

わわわのひろば

2016年2月 第4号

社会福祉法人 宮城厚生福祉会



新年のご挨拶

社会福祉法人 宮城厚生福祉会

事務局長 海 和隆 樹

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は皆様にとってどのような年だったでしょうか。法人にとっては、介護報酬の大幅削減、保育システムの変更など、社会福祉法人の経営基盤を直撃しその困難に対して、職員とともに一生懸命に頑張った一年でした。保育、介護など福祉分野での人材不足は社会問題となっています。保育所や老人施設を作っても働く人がいなければ、「絵に描いた餅」です。安心して家族を預けられる施設運営のためには、そこで働く職員への賃金も含めた社会的評価が必要です。今年も皆様とともに、社会保障充実の運動を進めてまいりますので、ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

もう一つ、昨年は「戦争法」が可決されました。圧倒的多数の憲法学者が「違憲」を表明し、圧倒的国民が反対する中で、「強行可決」されました。政府は、「戦争法」の呼び方で国民を扇動し、不安に陥れたというが、世界に誇る憲法9条をないがしろにすることに怒り、戦争をする国づくりに向けた動きに不安を感じ、今までに声を上げなかった人たちも声を上げました。「シールズ」や「ママの会」等自分たちの考えを自分の言葉で表明し、運動は大きく広がりました。福祉という言葉は「しあわせ」を意味します。「人の命」を守り、育む福祉事業を行う宮城厚生福祉会は「いかなる戦争政策」にも反対の立場です。ご理解とご協力も今年もお願ひしたいと思います。

今年も申年です。申年といえば私は、日光の三猿「見ざる、聞かざる、言わざる」を思い出します。調べてみますと三猿の意味については諸説様々あるようです。戒め、教育のあり方として使われていて「幼年期に、悪いことを見たり、言ったり、聞いたりしないで、素直なままに育ちなさい」という教育論であるとの説も。とはいえ、この世の中ではこれを実践するのは非常に難しいですね。大人が言葉のとおり「見ざる、聞かざる、言わざる」ではなく「見て、聞いて、言って」行動し、良い未来を子供たちに引き継ぎたいものです。私達の「声」で様々な困難が「さる」年にしたいものです。



下馬みどり 保育園

げばみどりほいくえん

〒985-08351 多賀城市下馬1丁目10-4
TEL 022-361-3385

多賀城市下馬に開園して5年目。定員60名ですが待機児童の多い地域でもあることから、今年度は68名の子どもたちを受け入れていきます。近くに坂総合病院があり、医療関係の保護者が多いのが特長です。保育園は傾斜地を利用して建てられており、2011年4月開園予定だったところ、直前の3・11東日本大震災で、建物の脚部分に亀裂が入り補強のため1か月程の工事期間中は、多賀城市のサポートセンターを借りての保育でした。5月新園舎に引越した時は「広い」「きれい」と皆感激でした。

園庭は狭いのですが、近くには公園が点在していることからどのクラスも四季折々の自然を求めて散歩活動を取り入れていきます。車での登降園、どこに行くにも車移動など、歩くことの経験が少ない子どもたちにとって散歩は欠かせないものです。

0、1歳児は歩けるようになった喜びで探索活動をいっぱいしています。2歳児はお友達と手をつないで、一緒に楽しく、木の実や葉っぱを持ち帰り様々な製作活動に利用しています。3、4、5歳児は目的をもって遠くまで出かけることもできるようになり、歩くことに自信がついてきています。

地域との交流ということでは、お泊り保育で食材を、地域の商店に子どもたちと一緒に買いに行ったり、お礼の手紙を届けたり、結びつきを少しずつ作ってきているところです。

また、徒歩20分程のところにある公立保育園と年3回、4、5歳児がリズムやゲームを楽しんだり、観劇するなどの交流保育を実施しています。他園の子どもたちと顔見知りになることで小学校入学時の安心にもつながっています。

今後も、保護者の皆さんとともに、子育ての大変さや喜びを分かちあひながら、社会資源としての保育所の在り方を一層考えていかなければと思っております。

(園長 小関 靖子)



介護老人福祉施設

田子のまち

たごのまち

〒983-0021 仙台市宮城野区田子字富里153
TEL 022-388-9970



田んぼに吹き渡る風、緑色から黄金色に移り変わって行く稲穂を眺めながら田子のまちも開所から3年目を迎えました。

田子のまちでは起床の時間、食事の時間、お風呂の時間が決まっています。入居された方が起きた時間から起きる、食べたい時間に食べる、入りたい時間にお風呂に入る、そんな暮らしをして頂きたいからです。施設にお引越して来た事でそれまでの生活リズムが変わってしまうのではなく、それまでの暮らしが継続していただける様お手伝いしたいと考えています。

田子のまちが自慢できる事は、「ご家族の皆さん、地域の方々に沢山足を運んでいただけることです。日常的に入居しているご家族に会いに来て頂く事は勿論ですが、施設内の行事へのお声掛けにも快く対応して頂き、ユニット内のキッチンで自慢の腕を振るい、皆さんに美味しい料理をふるまっておられるご家族もいらっしゃいます。

又、バリアフリーの建物、施設内にレストランがあるという特性を生かして、近隣の町内会の敬老会を田子のまちの研修会議室で毎年ご利用頂いており、沢山の方においで頂きました。

ボランティアさんの訪問、問い合わせも多く、定期的に訪問して下さる民謡ショー、歌、フラワーアレンジメントや美容教室等のボランティアさんとの活動を楽しみにしている入居者さんが多くいらっしゃいます。

田子のまちはこれから、入居者の皆さん、ご家族の皆さん、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、入居者の皆さんに居心地が良いと感じて頂けるもう一つの我が家造りの為に努力していきます。

(副施設長 伊藤 初恵)



福祉社会と私 ①

宮城厚生福祉会 理事長 福岡 眞哉



宮城厚生福祉会は、来年20周年を迎えます。これまで多くの方に支えられてきました。法人で尽力されてきた方も多数いらっしゃいます。この「福祉社会と私」の連載では、これまでかかわってこられた皆さんに登場して頂きたいと思えます。

社会福祉法人宮城厚生福祉会（以下、福祉会）は1997年3月に設立されました。この法人設立は、宮城民医連第3次長期計画（以下、県連長計）1996年から2000年までの5年間、主課題は「①仙台圏の空白克服（独立型の無床診療所建設） ②仙台圏に長期療養施設を建設する」ことであり、その目標を公益財団法人宮城厚生協会（以下、厚生協会）が援助して具体化したものです。当時私は、厚生協会の常務理事で介護福祉部門を担当していました。2000年介護保険開始に向けて、介護支援専門員養成（ケアマネージャ）や訪問看護ステーションの立上げと県連長計の仙台圏医療構想の具体化に携わっていました。

この当時は週に1度は仙台市庁舎と宮城県庁舎に通い、それぞれの高齢者福祉計画（特別養護老人ホームなど）を関係部署から情報として集め、計画の進捗状況（具体的には時間軸と地域・規模＝空床）と私たちの構想を擦り合わせる日課でした。私たちの構想と言っても特養を若林区又は宮城野区に建てたいと言う願望に過ぎませんでした。つまり、法人格・建設費・場所未定では相手にしてくれませんでした（尚、宮城野区の場合、法人認可は県、施設認可は仙台市）。

今振り返ると法人設立は超スピーディに約3ヶ月で出来ました。それは、法人設立に当り2つの選択肢がありました。1つは高齢者施設認可と同時に取得する。もう1つは厚生協会が持っていた保育園を分離して事前に取り。ことでありました。私たちは、法人格を取得してから仙台市との折衝が有利と判断して保育園分離を決めました。さっそく、法人設立準備会発足を決め、準備委員に私以外に彦坂直道（故人）、小野ともみ、沖直子（故人）、伊藤美津子、千葉強の各氏にお願いして進めました。第1回設立準備会及び理事会準備会を旧メルパルク仙台で開いた記憶があります。

その後、特養建設準備室を福田町踏切脇のアパートに開設 ①『仙台市にみんなで特別養護老人ホームを作る会』（以下、つくる会）運動 ②仙台市との折衝を開始しました。当初、つくる会運動は、もっぱら理念と夢の可能性を大きく膨らませ、より多くの市民と接点を持ち広げ進めました。仙台市との折衝は、何度も挫折しそうになりましたが、ある時期に担当者から「市の特養はあと25床で次期計画は終了するが、複合型施設（ケアハウス・ショート・デイ）なら可能性がある」と言われました。これを逃せば、あと何年待つかわかりません。さっそく、つくる会世話人会を開き、この間の状況説明と第一次、第二次計画として、将来宮城野区に特養をつくることを確認、宮城野の里建設運動がはじまりました。候補地は建設運動が旺盛に展開できることを期待して、坂総合病院の一部診療圏であった仙台市東部・宮城野区を選びました。そして、場所選定は3ヶ所（燕沢・新田・田子）ありましたが ①駅の側で街の中心に近い ②医療と福祉の連携の可能性 ③地権者の協力などを理由に現在地を選びました。（次号につづく）

11.15

福祉ウェーブ報告

11月15日(日)14:00~15:00 福祉ウェーブを実施しました。介護はさくらの前、保育はフォーラス前に分かれて、現場から福祉現場での人材不足や、利用者負担の増大、福祉に対する予算拡充を訴えながら署名活動を行いました。参加人数と署名数は以下の通りです。

参加人数、集めた署名数は過去最高であり、毎年の取り組みの中で署名を訴える現場の皆さんが、現場実態を一般の方に伝えるよう、自分の言葉で伝えながら、署名の趣旨を伝えていくという経験が積み重なってきていると感じます。福祉ウェーブでは、福祉を守り拡充していくように、介護と保育が一体となり密に連携を図りながら、運動を進めていきたいと思えます。



◆参加人数

さくら野前(介護)：49名(うち民医連、介護福祉部11名)
フォーラス前(保育)：71名
(うち福保労6名、保育センター関係4名、社保協1名)
合計：120名

◆署名数

●介護署名：216筆 ●保育署名：570筆
●25条共同署名：94筆



仲間と取りくむ「クリスマス子ども会」



12月、乳銀杏保育園で「クリスマス子ども会」が開かれました。たくさんの保護者の方が見守るなか、3・4・5歳児のクラスでは、絵本などを題材にした劇を発表します。

『ロボットカミイ』の劇づくりに取り組んだ5歳児クラス。Aくんは恥ずかしくて舞台上上がることができません。練習の度に誘ってくれる同じ役のBくんも心配そう…。保育者の「先生もAくんとBくんと一緒にまぜてくれる？」の言葉をきっかけに、当日も3人で舞台上がることになりました。その後の絵には、二人ともお互いの姿を大きく描き、「二人で一緒にできてうれしかった」と話していました。“恥ずかしいけど本当はやってみたい”という葛藤を超える力は、やはり仲間の存在なのだと感じました。

ケアハウス新年会



ケアハウス宮城野の里では年初めて「新年会」を行いました。毎年、ゲストをお呼びし楽しい演出をしていただくのですが、今年はその演出をケアハウス職員が挑戦してみました。施設長含め3名しかいない為、楽しんでもらえることができるか不安もありましたが、誰しもが一度は見たことがある「ドリフのひげダンス」に挑戦してみました。入居者の皆さんは職員の普段見慣れないひげの風貌でつかみはOK！一生懸命さも伝わり、手拍子をもらいながらパフォーマンスを喜んでいただけました。会の終盤には皆さんが楽しみにされている抽選会を行い入居者の皆さんと一緒に盛り上がりました。後日、「あのひげダンスはいつ、どれだけ練習したの？」とあまりの完成度の高さに驚きの声が寄せられました。

